

スケッチ旅での出来事(前号よりつづき)

埼玉西支部 千木良宣行

石に彫った字が、また美にいい。…はっと気が付いた。今まで耳には入っていたのだが、意識になかった。あたりには滝のような驟雨のような、急流の音が立ちこめているのだ。不意に背筋に戦慄が走った。唐突だが、「世界を五蘊と見るのは、ブツダの基本的な考え方」だと、最近知った(立川武蔵「ブツダをたずねて」)『般若心経』に、「五蘊皆空」という語があるのは知っていたが、それがブツダの基本的な考えだとまでは、知らなかった。こんなことを書くと、政治に野心を抱く某巨大宗教団体の会員ではないかと勘ぐる向きもあるが、私にはまったくそのケはない。五蘊とは、

- ①色(しき)：物質：自らの感覚器官が捉えたものもろの対象のこと。
- ②受(じゆ)：感受：熱いモノに触ると、「熱いっ!」と思うまでもなくさつと手を引くが、「この熱いっ!」までいかない「アツ」くらいの感受をいう。
- ③想(そう)：観念：何かに触ったとき、そのものが明確に判明するまでの段階の観念。
- ④行(ぎよう)：心的慣性：意欲や記憶などもこのグループに入る。
- ⑤識(しき)：認識つまり想の次の段階のこと。

このようにブツダは、世界を五つの要素で捉えていた。そのうち物質は唯一「色」で、それすら「感覚器官が捉えたものもろの対象」だということだから、「世界すべてが、感覚や心の働きで成立している」と考えた、といつてもいい。すなわち人が死ぬということとは、その人にとっては世界が消滅すると同じなのだ。「五蘊皆空(この世界を成すものは全て空である)＝本質が無い」は、仏教の基本的な概念だが、また絵画や文学など芸術全般の根源だと思ふ。

漂泊の詩人種田山頭火は、この、今聴こえている水音を詠んだ!

水音が聴こえているのに、私の意識はそれを捉えず「想」の段階だった。そして山頭火の句を読んで水音を認識した、つまり「識」の段階になった。「自分」などというものは、なんとまあ頼りないものであることか。しかも音立てて流れるその水は、併せ合わさって大天竜となって海へ注ぎ、ついに雲と化して天に昇り、雨となり、還つて来る。悠久の循環。

環。短い詩だとはいえ、まるで横山大観の「生々流転」の大絵巻を観るような叙事詩ではないか。このとき感動に貫かれた私を包んでいたのは、真夏の旅空のひんやりとした早朝の空気と、哀愁色を帯びた旅情と、偉大な詩人の魂だった。これだからいかに老いても、旅絵師は止められんじやよ。

米寿に世界一周の船旅へ 北口夢石

私事で恐縮ですが、毎年五月靖国神社で自作の陶器を使つての茶会が、昨年平成二十三年で六十回となり、私も米寿を迎え、切りの良い処で六本木での個展とともに納めさせていただきました。さて今年とは…。若いころから船旅に憧れていたので、新聞広告で見た地球一周の船旅に、躊躇せず応募して、五月八日から一〇二日間の船旅を堪能させていただきました。

帰国して機会のある度に、どうして世界一周に行こうと思ったの、どこが一番よかったですか、日本とどこが違いますか、視野が広がったのでしょうか色々聞かれますが、何も変わらない私です。ただテレビを見て居て、ア、あそこは行った、あそこは知っている、行ったことのないところでも身近に感じ、ヘエーと思つたりします。乗船した船はデンマークで一九八一年建造の三万五千噸オーシャンドリム号、船長以下船員は、ほとんど外国人でした。五月十二日最初の寄港地、中国の厦門(アモイ)では初めての外国で、という思いと、遠い：余りにも、立派な港で素晴らしい建築、街、大勢の人々、想いを一新しました。それに誕生日を船内で祝つて頂いたのが嬉しかったです。十七日シンガポール、寺院、マライオン、市内観光。十九日タイ、プーケット、お寺や民族舞踊鑑賞。二十三日、スリランカ、コロンボ、お寺や市内観光。六月四日スエズ運河通航、日本の援助で架けた日・埃(エジプト)友好の橋をくぐる。その前にアラビア海では四日間、日本の自衛艦が警護してくれて実に頼もしく思いました。

五日エジプト、ポートサイド、ピラミッド、スフィンクス、博物館等々。七日ギリシャ、ニコス島、エーゲ海に浮かぶ美しい島で白壁の街、白い小さな教会等。一人で散歩しました。八日ギリシャ、ピレウス、アテネを見下ろす世界遺産パルテノン神殿

を観光。飛行機でローマに入り一泊。九日バチカン見学の筈が、体調不良で一日中ホテル、娘が飛行機で日本から到着。私の代わりにツアー参加、翌十日飛行機でカタニアへ、市内観光後舟に合流。十五日ポルトガル、リスボン、体調不良で上陸せず。十七日スペイン、ビルバオ、ここでもツアーに参加せず、港内を散歩する。二十日フランス、ルーヴル、片道三時間のモン・サン・ミッシェルツアーに参加、幻想的な世界遺産を楽しみました。二十一日イギリス、テイルベリ、二日間のロンドン観光に、タワーブリッジ、ビッグベン、ロンドン塔や、ウエストミンスター宮殿等、市内が一望できるロンドンアイに乗ったり、テムズ川クルーズを楽しみ感一人でした。

二十五日スエーデン、ヨーテボリ、雨に降られました。運河クルーズ、教会、ハーガ地区を観光。二十六日ノルウェー、オスロ、ノーバル平和センター、国立美術館、王宮、スキージャンプ台等観光。二十八日ノルウェー、ソグネフィヨルド、ネーロイフィヨルド、氷河に削られた渓谷を約一八〇km遡上、素晴らしい景観を楽しみました。

三十日アイスランド、レイキャビック、国立公園、ブトフオスの滝、ゲイシール等観光。七月五日グリーンランド沖にて巨大な流水が次から次へと澄み渡る空気の中で大自然を感じました。カナダ、アメリカ沖の大西洋を南航。十五日中南米ベネズエラ、ラグアイラ、緑の山肌が立ち並ぶ静かな港、首都カラカスの高層ビルが立ち並ぶ街とスペイン時代の旧市街。民芸品村、又山頂までひしめき合っている貧しい家々、中南米の貧富の差を感じました。十九日パナマ、フリストバル、運河鉄道に乗車、運河の開門を日本製の小型ディーゼル機関車が牽引して通行する船を見学、NYかと思える新興都市。

二十日パナマ運河通航。二十一日ニカラガア、コリント、市民の歓迎パレードを受け、レオン市内でアートギャラリー、大聖堂内部も拝見、二十五日グアテマラ、プエルケツアル、スペイン時代中南米の政治、宗教の中心地として栄えたアンティグア、サンフランシスコ教会、カプチナス修道院、メルセー教会、国立宮殿、民芸品市場等、一泊して観光する。

二十九日メキシコ、マンサニージョ、静かな港町で、ツアーに参加せず船中で友人になったご夫妻と三人で市内をタクシー観光、道端でイグアナを見付けた、自然の中でゆっくりしました。

八月二日最後の寄港地メキシコ、エンセナーダ、こも友人と三人で市内観光、白い美しい迎賓館で本場のコーヒーを頂いたり、街中をタクシーで巡り、港の岸にはアザラシがぎょろりと日光浴、珍しい光景でした。夜一路太平洋を日本に向かって出港。横浜港まで十五日間、船内では、操舵室の見学や、クルーズの間に習った、歌や踊り等の発表会。毎日のように催された、映画、講演会、スポーツ、語学等忙しく過ごして、八月十七日帰国。日本の暑さにびつくり。それと清潔で心地よいトイレにホッと。日本は最高。でも機会があれば又出掛けたいです。(終り)

支部展めぐり さきたま支部長 住佐美紗子

昨年二月にさきたま支部展を久しぶりに開催することが出来ました。

皆さんお忙しいのに来ていただいて、大宮という土地に初めての方もいました。会場が氷川神社の参道に面し能舞台があり、お茶室も備えた和の氷川の杜文化館は、とても趣のある会場であったと思っています。

支部展の後、今年他は他の支部展を出来るだけ回つてみようと思心した。まず三月の京都支部展、未だ寒さの中さいたま新都心から夜行バスで京都へ、会場は旧日銀の赤レンガ建物を前面に生かし、バックに新しい展示場をもつ京都文化博物館は素晴らしい。ここで今年三月に巡回展を開催できるのだ。

飯村さん、四方さん、小川さん、陶芸の北口先生、ゆつくり話が出来たのは初めてで、「委員会が出来ますね」と話題が尽きなかった。飯村さんが「自分の作品だけ出すのなら楽なものですよ」と言われたの一同全く同感。

大きい会を運営するのも、支部展のように気心の知れた人達をまとめて一つの会をやるのもそれぞれに苦労があるのだ。しかしやってみたら達成感、苦労した者にしか分からない。

昨年四月は神奈川支部、多摩支部、千葉支部、東京東支部、五月埼玉西支部、六月東京支部、と廻りこの間に友人知人の出品している公募展や個展を廻った。支部展は交通の便利な所に在る公共の施